

○中間評価の結果について

・「優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。」(4校)

<学校名>

名古屋大学教育学部附属中・高等学校
関西創価高等学校

京都府立鳥羽高等学校
愛媛大学附属高等学校

・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。」(19校)

<学校名>

秋田県立秋田南高等学校
千葉県立成田国際高等学校
富士見丘中学高等学校
大阪府立豊中高等学校
兵庫県立兵庫高等学校
島根県立隠岐島前高等学校
広島大学附属福山中・高等学校
愛媛県立宇和島南中等教育学校
長崎県立長崎東高等学校
鹿児島県立甲南高等学校

福島県立ふたば未来学園高等学校
東京学芸大学附属国際中等教育学校
大阪教育大学附属高等学校平野校舎
関西学院千里国際高等部
兵庫県立国際高等学校
岡山学芸館高等学校
広島県立広島中学校・広島高等学校
高知県立高知西高等学校
宮崎県立宮崎大宮高等学校

・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。」(17校)

<学校名>

立命館慶祥中学校・高等学校
仙台白百合学園中学・高等学校
法政大学女子高等学校
石川県立金沢泉丘高等学校
愛知県立時習館高等学校
京都学園高等学校
大阪府立千里高等学校
神戸大学附属中等教育学校
中村学園女子高等学校

岩手県立盛岡第一高等学校
横浜市立南高等学校
新潟県立国際情報高等学校
長野県上田高等学校
中部大学春日丘高等学校
同志社国際高等学校
清風南海高等学校
岡山県立岡山操山中学校・高等学校

・「研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。」(12校)

<学校名>

札幌日本大学高等学校
青山学院高等部
大阪府立能勢高等学校
兵庫県立伊丹高等学校
福岡県立鞍手高等学校
福岡雙葉中学校・高等学校

東京工業大学附属科学技術高等学校
京都市立西京高等学校
大阪府立泉北高等学校
鳥取県立鳥取西高等学校
福岡県立京都高等学校
明治学園中学校・高等学校

・「このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。」（3校）

<学校名>

埼玉県立不動岡高等学校

早稲田大学本庄高等学院

千葉県立松尾高等学校

・「現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーグローバルハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される。」（1校）

<学校名>

啓明学院中学校・高等学校

○中間評価講評

1	立命館慶祥中学校・高等学校	<p>○課題研究の「進捗状況」と「生徒の成長」の段階を着実に進めている点は評価できる。</p> <p>○また、学校の特色を活かした高大連携や留学生の受け入れ人数の増加等については評価できる。</p> <p>○学校法人内の連携がよく図られているが、今後は地域の学校との連携をより緊密にし、成果普及を強化することが望まれる。</p>
2	札幌日本大学高等学校	<p>○課題研究において、地域的なテーマを取り上げ、グローバル・リーダーとしての能力や資質を養うという方向性が明確である点は評価できる。</p> <p>○教員や外部講師が生徒に「教える」というより、生徒が主体的に「学ぶ」ことに重点を置いた課題研究等の展開が望まれる。</p> <p>○また、仮説に基づく成果や課題については、より客観的な分析が望まれる。</p>
3	岩手県立盛岡第一高等学校	<p>○探究のプロセスにのっとり事業が展開されており、習得したことを自分の生き方や社会に生かそうとしている姿勢は評価できる。</p> <p>○構想の実現のため、生徒に身に付けさせるべき資質・能力や卒業時点での生徒像を明確にする視点が弱いため、改善が望まれる。</p> <p>○また、学校体制としては整えられているが、個々の教員のさらなる連携強化を期待したい。</p>
4	仙台白百合学園中学・高等学校	<p>○生徒、教員の意識の変化も見受けられ学校全体で取り組んでいる点は評価できる。</p> <p>○また、人事的な配置により、週1回の進捗管理に関する取組が行われていることも評価できる。</p> <p>○成果の広報に取り組まれているが、具体的な目標に照らしてその根拠を示すといった実証的なものとするよう今後改善が望まれる。</p>

5	秋田県立秋田南高等学校	<p>○フィールドワークにおいて、事前・事後の取組を有機的につなげ、効果をあげている点が高く評価できる。</p> <p>○秋田県の特徴である農業を中心テーマとし、それを郷土・世界、両方の視点から研究するという明確な研究方針も高く評価できる。</p> <p>○SGHの精神に合致した地方公立高校のモデル的な取組だが、年度進行とともにマニュアル化が進み形骸化しないよう、今後も常に省察的に実践を重ね進化できる学校文化の形成に期待したい。</p>
6	福島県立ふたば未来学園高等学校	<p>○管理機関のみならず地域や日本全体の支援を受けながら、学校全体として、復興という地域創生を行うとともにグローバル人材育成の教育プログラム開発と環境整備を進めた取組は高く評価できる。</p> <p>○また、国内外の機関や組織、高大連携など計画以上の取組が見られる点も高く評価できる。</p> <p>○今後は本取組をさらに広く発信していくことを期待する。</p>
7	埼玉県立不動岡高等学校	<p>○論理的思考力の育成を重要視しているが、評価方法が確立されていないため、他校の事例を参考にしながら、課題研究における生徒の探究プロセスの丁寧な分析を行うことが望まれる。</p> <p>○事前研修と海外研修とが関連づけられているが、生徒の自己評価に依存しているため、より客観性のある指標を用いることが望まれる。</p> <p>○学校全体の取組とするために、教員の意識が統一できるよう、全職員が研究の核を共通認識する必要がある。</p>
8	早稲田大学本庄高等学院	<p>○一定の人材育成や挑戦は行われているが、課題研究の意味や価値を問うているか、学校総体として生徒も教師も成長を遂げているか等、SGHとしてのミッションを果たしているかという視点から取組を捉え直す必要がある。</p> <p>○全員が進学する早稲田大学まで含めた7年間でのグローバル人材育成プログラムとなっており、SGHとしての特色ある人材育成となっていない点は早急に改善する必要がある。</p> <p>○とりわけ、SGUとSGHを区別した上で特色の違いや相乗効果を明らかにし、SGHの効果をより具体的に示す必要がある。</p>
9	千葉県立成田国際高等学校	<p>○地域や専門性を生かした大学・企業人を受け入れて研究開発を全体化し、生徒に変容を促している点が高く評価できる。</p> <p>○課題研究に必要なテーマの教材作成に加え、ロールプレイ教材、情報収集法（質的研究手法）、海外フィールド調査手法など多くの教材の作成に取り組んでいる点も高く評価できる。</p> <p>○英語教育について高い成果をあげているが、英語教育と課題研究の関連や、英語以外の科目との連携等、総合的・統合的な視点を持って取組をすすめることが期待される。</p>
10	千葉県立松尾高等学校	<p>○計画は実施されているが、各活動が「目標」を達成するプログラムとして統合されたものになっていない点は課題である。</p>

		<p>○自ら課題を設定し、テーマに沿って習得した知識・技能を活用するといった探究のプロセスを意識した指導を充実させる必要がある。</p> <p>○SGH事業の目的と照らし、グローバル市民形成という観点から地域課題を世界的視野から解決できるような人材育成という狙いを明確化するなどの改善が望まれる。</p>
11	東京学芸大学附属国際中等教育学校	<p>○育成すべき能力等を明確にし、それに関わる様々な評価材料を根拠として丁寧に自己評価が行われており、すぐれた取組が計画通り進捗している点が高く評価できる。</p> <p>○また、多くの教員が課題研究の指導にあたっている点など学校全体の教員を巻き込んだ取組として展開されており、高いレベルの研究成果や生徒の変容も顕著に見られる点が高く評価できる。</p> <p>○なお、海外フィールドワークの事前研修の参加者が少ない点は今後改善が望まれる。</p>
12	東京工業大学附属科学技術高等学校	<p>○グローバル社会への視点をもてるよう地政学的な基礎的・基本的な知識を補うテキストや開発科目に関わるテキストを開発している点が評価できる。</p> <p>○SGH・SSHどちらの指定も受けているが、学校全体としてグローバル人材と科学技術系人材育成の整合性がとれていないため、学校全体で検討し、SGHとしても研究体制や課題研究内容の充実が図られる必要がある。</p> <p>○高大連携によりグローバルな社会の現状を知るための学習は充実しているが、今後は課題研究へ向けての自己課題の設定や問題解決の出口としての活動を充実させていくことが課題である。</p>
13	青山学院高等部	<p>○個々の取組は評価できるが、それぞれの関連性が読み取りにくいいため、今後は体系的に整理していくことが望まれる。</p> <p>○全体的に進捗のペースが遅く、今後は組織だった計画・指導体制改革、並びに、5年以降の取組についての計画も提示が必要である。</p> <p>○高大連携による支援や国際活動の機会が充実しているが、成果が限定的であるため、機会と成果を連動するための手立ての提供が必要である。今後は海外研修（ボランティア）－成果論文（英語）－将来の留学・キャリアの一貫性を構築することが期待される。</p>
14	富士見丘中学高等学校	<p>○全生徒へプログラムの成果普及が図られている点や模擬国連部の創設は英語を活用して国際的グローバル課題を議論させる装置として効果的だと高く評価できる。</p> <p>○英語教員とネイティブ教員が一体となり、教科横断型授業へ取り組むなど工夫・意欲がみえ、将来につながる動きと見える。また、SGHカリキュラム担当者の編成について、すべての教員がローテーションで担当できるように配慮するなど、学校全体としても意識改革を求める工夫がなされている点が評価できる。</p>

		<p>○なお、生徒のモチベーションをどのように高めるか、生徒の研究内容をどのように深めるのか、あるいは生徒同士による英語活動等についてはさらなる工夫が望まれる。</p>
15	横浜市立南高等学校	<p>○グローバルビジネスを特徴付けることにより、プログラムの目的を明確にしている点は評価できる。</p> <p>○生徒の豊かな発想力は十分に認められるが、提案のオリジナリティーの確立やフィージビリティの検証が「次世代ビジネスリーダーの育成」のためには十分ではないので、改善が望まれる。</p> <p>○ルーブリックが策定されているが、その活用状況が必ずしも明示的ではない。生徒自らの相対的成長実感を問うことは必要で大切なことだが、そこに比重が置かれすぎており、取組の成果を検証するスキームにも弱さが見られる点は改善が望まれる。</p>
16	法政大学女子高等学校	<p>○2年次の研究開発資料などから、1年次と比べると飛躍的に内容が濃くなり、テーマや焦点が明確化している点は評価できる。</p> <p>○社会課題解決への提言が行えること、各自が学術的関心を深めることを狙いとする学習活動が構想され、全生徒がチームに分かれ、生徒自身が運営を行い自ら学びを深める活動が開発されている点は評価できる。</p> <p>○開発を進めているグローバルリーダー・プログラムが計画通り進められているが、成果を何に見いだすのか、また、成果を把握するための根拠資料を何に求めるのかといった検証面において、アンケートの結果だけで十分か再考が必要である。</p>
17	新潟県立国際情報高等学校	<p>○「国際文化科」「国際情報科」の学校構成は、グローバル人材育成プログラムにおいて条件が整えられているうえ、学校の雰囲気が変わってきたというのは評価できる。</p> <p>○地域のテーマを取り上げ、教員側が経常的に進捗状況を把握できる規模での研究が行われている点や大学・企業等との連携も日常的に指導・助言を受けられる関係となっている点が評価できる。</p> <p>○しかし、評価については今後さらに成果が明確になるような工夫が求められる。</p>
18	石川県立金沢泉丘高等学校	<p>○課題の発見、多面的な視点を促進するために、課題設定において外部専門機関との連携を図るなど生徒に多様な機会を提供している点が評価できる。</p> <p>○海外研修での調査は、調査する対象が幅広く、場所も多岐に亘り比較考察している。フィールドワークを取り入れたことで、主体的な行動力の育成が伸長したという実績は評価でき、探究の中にフィールドワークが位置づけられている好事例である。</p> <p>○報告書に掲載された記事の中に、「～と感じました」といった表現が多くみられるが、生徒が事業を通して何を考え何をすべきと考えた等の自分の言葉による「価値づけ」を行う必要がある。</p>

19	長野県上田高等学校	<p>○概ね研究開発計画に沿った成果を達成している。また、外部機関との連携による国際活動や実践活動については当初計画を上回る結果を達成しており評価できる。</p> <p>○しかし、各プログラムにおいて生徒に満足度や自らの相対的成長実感を問うことは重要だが、それを「成果」としたり「学校として育成したい資質・能力の達成度」を図る指標としたりすることは難しく、評価・検証方策についての創意工夫が必要である。</p> <p>○今後プログラムの継続性、発展性を保つために、3年次の選択プログラムの提供や教材開発、授業改善、カリキュラム改訂の推進が期待される。</p>
20	名古屋大学教育学部 附属中・高等学校	<p>○北米拠点、アジア拠点を開拓し、積極的に交流を計画・実施しており、テレビ会議システムを活用してモンゴルの学校との交流を行うなど、教育環境を国際化している点が極めて高く評価できる。</p> <p>○生徒の意識調査からも狙いとする「深い理解」「判断力・有用な情報収集」などの力の伸長が見られる。それぞれの仮説について、アンケート調査に基づいた数量的な分析がなされており、成果が報告されている点が極めて高く評価できる。</p> <p>○学校全体で「協働的探究学習」を取り入れた授業改善に取り組み、結果を活用しながら研究開発内容の改善を図りつつ進めている点が非常に優れている。</p>
21	愛知県立時習館高等学校	<p>○6つの目標を設定し進捗管理の指標を明確化している。また、授業や研修に関して大学や企業との緊密な連携が図られていることは評価できる。</p> <p>○国語、公民、外国語、総合的な学習の時間のカリキュラムが有機的に関連づけられ、生徒の主体的で対話的な学習活動が実行できるよう方法面での工夫が図られているため、今後は他の教科・科目も関連してくることが期待される。</p> <p>○なお、海外研修参加者が限定的であることや、英語コミュニケーション能力の伸び率が低いこと等から、英語によるアクティブ・ラーニングや海外研修を通して知識を実践的に活用する機会を増やし、教育効果を狙う必要がある。</p>
22	中部大学春日丘高等学校	<p>○指定1年目は対象を国際コースとし、2年目には啓明コースを加え、さらに3年目は他のコースにも拡大し、SGHの効果を学校全体に及ぶようにしている方向性は評価できる。</p> <p>○また、「グローバルコンピテンシー自己評価」を全生徒を対象に実施し、年間3度試行して生徒の変容を見ようとしている点、多項目に亘りデータが伸長していることは評価できる。</p> <p>○しかし、広く様々な活動をしているが、活動の相乗効果を求めるのであれば、どこにターゲットを絞るかも重要であるので、今後検討されたい。</p>

23	京都府立鳥羽高等学校	<p>○探究のプロセスにのっとった外国語の習得及び活用は極めて高く評価できる。生徒の視野は確実に広がっており、生徒の成長でも事業の基準を十分に満たした効果をあげている。</p> <p>○また、同様に大学と連携しアクティブ・ラーニングを軸とした活動の実施やアクティブ・ラーニングへの指導法転換が取組を支えている点も極めて高く評価できる。</p> <p>○とりわけ、PDCAサイクルが実質的に機能しており、特に成果の検証については、独自のルーブリックや生徒自身の相対的成長実感を問うアンケート、授業評価などの多様な方法が用いられており、SGH校のモデルとなり得る取組である。</p>
24	京都市立西京高等学校	<p>○物事を「問題化」する能力の獲得を目指した特徴的な事業であり、レベルの高い課題研究を通して当初の目的は果たされつつある。</p> <p>○しかし、育みたい資質・能力についての校内の共通理解が十分に醸成されていない点や実践される多様なプログラムの体系的に弱さが残る点は今後改善が必要である。</p> <p>○なお、研究内容を目標に照らしてリンクさせたり、評価のため複数のデータを複合的にまとめたりすることで、各プログラムが拡散的にならないよう確認しつつ、着実な研究姿勢を期待する。</p>
25	京都学園高等学校	<p>○国際コースについては計画通り進捗しており、国際的な課題を時間をかけて学ばせ、体系的な取組が行われている点が評価できる。</p> <p>○しかし、指導の多くを外部講師に頼っているため、自校教員による指導も増やすなどの改善が必要である。</p> <p>○加えて、海外研修が課題研究の中に位置づけられていないため、効果的なフィールドトリップとなるよう再考する必要がある。</p>
26	同志社国際高等学校	<p>○中心的なプログラムについては英語との関連が図られ、十分な成果が期待できる厚みのある活動が適切に実施されており、評価できる。</p> <p>○海外研修先の意味づけが不明確であり、内容について本事業の趣旨としてふさわしいかどうか再考されたい。</p> <p>○自己評価や成果の提示が明確にできておらず、評価のエビデンスに必要な調査を充実させる必要がある。</p>
27	大阪教育大学附属高等学校平野校舎	<p>○実態に応じて当初計画を改善しながら順調に実践を進めており、生徒の課題研究に対する意欲やキャリアデザインに対する意識の向上や、多くの教員が自身の教科指導をも変えつつある等、学校全体が変容している点が高く評価できる。</p> <p>○新しい評価方法や教員研修の全国ネットワークを構築するなど、SGH校として他校を牽引している点は高く評価できる。</p> <p>○また、1・2年生の課題研究は通年行われており、国内外のフィールドワークや研修旅行と関連づける等の工夫も高く評価できる。</p>

28	大阪府立豊中高等学校	<p>○生徒の主体性を尊重し能動的な学習展開がみられる。海外研修でのフィールドワークも探究の課題に基づいて行われている点は高く評価できる。</p> <p>○また、教員相互の授業見学が実施され、課題研究の指導法は各教科・科目へアクティブ・ラーニングの取組として波及している点も高く評価できる。</p> <p>○なお、「グローバルな社会問題を発見・解決できるコンピテンシーの習得」が目標となっているため、今後はその目標にどのくらい近づいているのかを示す分析が求められる。</p>
29	大阪府立能勢高等学校	<p>○地域に密着した多様なプログラムを真摯に実施しているが、生徒たちの資質・能力の向上にどれほど寄与したのかという点での検証も必要である。</p> <p>○外国語教育に関する取組、とりわけ英語活用能力の育成と実践の機会の提供に不十分さが残る点は改善が望まれる。</p> <p>○来年度から分校化することも踏まえ、指定終了後を見据えた計画が求められる。</p>
30	大阪府立千里高等学校	<p>○課題研究を中心とした教育を学校に根付かせ、生徒の変容などの面で成果をあげており、中間時点での課題の明確化、事業終了後の教育の継承・発展の展望がなされている点が評価できる。</p> <p>○また、HPに実践記録等を掲載し、実践を公開していること等は、大変進んでいると評価できる。</p> <p>○しかし、課題研究や成果の検証方法が生徒アンケートに偏っており、アンケート結果はSGHの成果か判断が難しいものもあるため、特に課題研究の取組や成果については、具体的な生徒の探究の姿での提示など今後は改善が必要である。</p>
31	大阪府立泉北高等学校	<p>○具体的な生徒の事例からSGH構想調書に沿った成果が出つつあることは評価できる。</p> <p>○しかし、2年を経た時点で教員間でのSGH理解が進んでいないようである。今後は国際文化科として本来活かされる全体的な組織力や特色あるプログラムを実行されることを期待したい。</p> <p>○特に、個々の生徒達の努力・能力に頼っている印象があり、教員の指導や連携などが見えてこない点はおおいに改善が必要である。</p>
32	関西学院千里国際高等部	<p>○大学の教育リソースや図書館利用の利便性を享受することや企業、国際機関との連携の充実がみられる。さらに、メンター制度を採り入れ、きめ細かい教育に取り組んでいる点は高く評価できる。</p> <p>○帰国生徒が多く在籍し、併設のインターナショナルスクールの国際バカロレア（ディプロマ・プログラム）の履修も可能な学校環境から、質の高いSGHの取組が期待される。</p> <p>○なお、国際バカロレアプログラムのカリキュラムにもとづく教育方法に満足することなく、独自のプログラム開発の継続が期待される。</p>

33	関西創価高等学校	<p>○探究のプロセスにのっとり事業が展開されており、教科で習得した学びを課題解決に役立てている点が極めて高く評価できる。</p> <p>○特に、探究型総合学習で生徒が積極的に運営に関わっており、生徒意識調査で多項目に亘り意識が向上している点や数々の事例を取り入れた教材開発が進められている点も極めて高く評価できる。</p> <p>○なお、卒業生を中心とした海外大学との連携、高大連携を活用したキャリアデザインアドバイザーなど、学びの環境が整えられている点やCritical Writing Centerの設置・活用など、補助的環境が効果的に設定されている点も評価できる。</p>
34	清風南海高等学校	<p>○SGHの狙いと課題を整理した上で、シナリオプランニングを軸としたカリキュラムの構築によりそれぞれの課題解決に努めている点が評価できる。</p> <p>○また、教員及び生徒の参加範囲の広がりから当初計画より発展していることが見て取れ、本プログラムの充実と発展が期待できる。</p> <p>○しかし、個々の教員の努力による運営となっており、教員のチームによる実績がみえてこないため、この点は改善が必要である。</p>
35	神戸大学附属中等教育学校	<p>○教科横断型体系的グローバル人材育成カリキュラムの開発、内容言語統合型学習（CLIL）によるグローバル課題研究の高度化を図っている点が評価できる。</p> <p>○また、国立大学附属学校という大学をはじめ外部バックアップ体制の可能性に恵まれた上でのSGH取組や結果は十分なものがあるが、学校全体でチーム力を強化すれば一層の飛躍が期待できる。</p> <p>○しかし、海外研修は一部の生徒のみの参加であり、目的や課題研究での位置づけもやや弱く感じられるため、生徒の課題意識と国内外フィールドワークが一層有機的につながるよう検討されたい。</p>
36	兵庫県立兵庫高等学校	<p>○ルーブリックでの評価にレーダーチャートでの評価を加え、評価の見える化に挑戦していることが高く評価できる。</p> <p>○また、未来創造コースのプログラムはきわめて充実したものであり、SGH対象外の生徒にも同様の科目を設定し成果を波及させている点は高く評価できる。</p> <p>○なお、今後は英語以外の各教科・科目とのカリキュラム上の関連をさらに図ることを期待したい。</p>
37	兵庫県立伊丹高等学校	<p>○探究的なプロセスを貫くことにより、生徒のさらなる協働的な学び、社会とのつながりをより明確にしていくことを期待したい。</p> <p>○「三方よし」の発想と「食文化の海外発信」という独自性が提示されているが、取組の出口が商品開発販売ではなく、生徒の学びと資質能力の育成という点になるよう改善が望まれる。</p> <p>○また、活動の中心が講演やフィールドワークの内容を発表・報告することになっているため、今後は課題発見、課題探究、議論による論理的思考の深まりなどプログラムの運営方法や重点の置き方、</p>

		指導法など再検討が必要である。
38	兵庫県立国際高等学校	<p>○ディベートや移民マップ作成など校内の活動に加え、地元企業雇用者と外国人労働者へのインタビューなど、生徒が課題に直に触れる機会を作り、深い理解を促している点など、課題の選択とプログラムの作りこみが高く評価できる。</p> <p>○また、移民という現代的なトピックについての意欲的な取組であり、ルーブリックの開発によって客観的な捉えをしようとする点も高く評価できる。</p> <p>○なお、「英語を用いて何かをする」事案は詳細な計画やリフレクションがあるが、課題設定とその取組内容の深まりについては、通り一遍の感があるためこの点は改善が望まれる。</p>
39	啓明学院中学校・高等学校	<p>○SGH取組である「学術研究」は2、3年次で1時間であり、プログラムの大部分は土曜講座や課外活動によって補われている。これらの活動のカリキュラム上の位置づけが不透明であり、年間を通じて生徒が主体的に探究を行う時間が教育課程表から読み取ることができない。生徒がどのような探究的な活動をして、ソーシャルビジネスプランを作成し、それをフィールドワークによって検証しているのか具体的な姿が見えてこないため、構想と実際に大きなずれがあることは問題である。本事業の趣旨にふさわしい新たなカリキュラムの開発が行われているとはいえず、既存のカリキュラムとの相違が不明である。</p> <p>○全学年で探究活動をしていくためには、担当教員の綿密な打ち合わせや情報共有が必要であるにも関わらず、SGHの中心となる「学術研究」担当者の打合せがどの程度、どのように行われているかが不明である。また、取組に関して、系列校である関西学院大学の連携に全て依存してしまっており、高校側の主体性がどのように担保されているのか十分に読み取ることができない。</p> <p>○この「学術研究」によるレポートは、あらかじめ示された文献のもと分析読書を実践、発表・議論し、まとめられている。「学術研究」の取組により構想の「ソーシャル・アントレプレナーシップを備えたグローバル・リーダーの育成」のための資質・能力を育成しているかどうか説明が不十分である。</p>
40	鳥取県立鳥取西高等学校	<p>○全職員がアクティブ・ラーニングなどの新しい指導方法に積極的に取り組み、授業改善を目指していること、特に英語科と他教科の連携による内容言語統合型学習（CLIL）的アプローチの実践などが行われている点は評価できる。</p> <p>○しかし、研究開発課題実現のため、課題研究、共同的・探究的な学び、海外交流の結びつきを明確にするとともに、成果を評価する仕組みや指標を確立し、成果の検証という視点を常にもちつつ研究</p>

		<p>開発を進めることが必要である。</p> <p>○育てたい資質・能力の水準が生徒の潜在的な力をさらに伸ばすものになっていないため、改善が必要である。</p>
41	島根県立隠岐島前高等学校	<p>○離島という地理的な制約にもかかわらず、シンガポールでの海外研修、マレーシア、ロシア、ブータンからの留学生の受け入れなど積極的な国際交流を実践している点が高く評価できる。</p> <p>○海外研修や授業研究について充実した教員研修を実施している点も高く評価できる。</p> <p>○探究のプロセスにのっとったカリキュラムデザイン構築、教員の意味疎通ができていることは評価できるため、今後は総合的な学習の時間で育んだ資質・能力を他教科で発揮することを期待したい。</p>
42	岡山県立岡山操山中学校・高等学校	<p>○多岐に亘る研究テーマを丁寧な指導している点は評価できる。</p> <p>○一方でオーストラリア研修については、語学研修や海外体験を超えるものになっていないので改善する必要がある。</p> <p>○SOUZAN国際塾が研究開発の1つになっているが、放課後・希望者のみの限定的な活動になっているため、内容を深められるような実践を行い、開発単位の1つとして充実させる必要がある。</p>
43	岡山学芸館高等学校	<p>○SGH運営委員会が全教科体制に拡大し、日常的に開催され教科横断的な面も促進されている。さらに全教員体制も進みつつあることや100分授業への必然性と実行力は高く評価できる。</p> <p>○また、地域や大学との連携を密に図るなど学校の特徴を生かした取組や、世界とのつながりを意識した単元展開は高く評価できる。</p> <p>○なお、教員が高大連携で大学講師から学んだことを積極的に教科指導等でも活用し全体的な授業改革を推進している点は評価できるが、全体の底上げを果たした後は、必要以上に「画一性」を求め形骸化やマニュアル化が進まぬよう考慮されたい。</p>
44	広島大学附属福山中・高等学校	<p>○課題研究の成果を測定するグローバルコンピテンシーを設定した評価指標を作成し、それらに基づき、実践と成果を適切に分析して取り組んでいる点が高く評価できる。</p> <p>○課題研究において、高大連携の成果を発揮させるとともに、開発した新教科との関連を図っている点や、各教科と総合的な学習の時間との関連が図られている点も高く評価できる。</p> <p>○なお、今後は、理論的、方法論的、学問的に緻密・合理的であるだけでなく、生徒と教員が一緒に具体的な課題を考え、議論し、新しい発見につながるような授業の充実が期待される。</p>
45	広島県立広島中学校・広島高等学校	<p>○研究計画を概ね計画通りに進め、成果を測定する根拠となるデータや事実を収集し、育成したい資質・能力について評価規準を作成して取り組んでいる点が高く評価できる。</p> <p>○また、各教科指導においてSGHに関わるコンピテンシーやアクティブ・ラーニングに取り組み、校内授業研究を充実させ、パフォ</p>

		<p>ーマンス課題による主体的な学びに向けた授業やパフォーマンス評価についての発信を行っており、成果を他校にも広めている点は高く評価できる。</p> <p>○なお、教員や保護者のアンケート等を通じ、SGH取組評価が細かく分析されているが、総合的な学習の時間の評価が下がったことや、広島市フィールドワークの日数や対象が限定的である点については、今後検討が必要である。</p>
46	愛媛大学附属高等学校	<p>○全生徒を対象として、ローカル・グローバル・グローバルな一貫性のあるプログラムを開発し、段階的にグローバル能力を育成する工夫に富む精力的な取組に加え、成果を客観的なデータを踏まえて分析している点は極めて高く評価できる。</p> <p>○事業の取組に沿った生徒の育成、教員組織の構成が効果的に働いている要因として、成果と課題を常に明らかにし次への取組を明確にしていること、PDCAサイクルを基準とした指導の工夫・改善、アクティブ・ラーニングへの指導法転換が挙げられ、極めて高く評価できる。</p> <p>○特に愛媛大学との連携が密で、大学教員の出講や単位取得のみならず、国際交流提携の支援、共同研究が進められている点は高く評価できる。また、生徒による成果発表に加え、教員による研究発表・論文発表なども積極的に行われており、成果の普及についての高い意識が伺え持続可能なプログラム設計がおおいに期待できる。</p>
47	愛媛県立宇和島南中等教育学校	<p>○仮説に基づく成果の検証について、独自のルーブリックの開発・活用、生徒による自己評価、保護者による評価など多様な取組がなされており、SGH校のモデルとなり得るものと高く評価できる。</p> <p>○また、計画は着々と進捗しており、今後は宇和島の文化について知識理解を深める方策について一層の工夫が望まれる。</p> <p>○なお、海外校との交流事業はフィールドワークの時期だけ行うのではなく、インターネット電話などの情報通信技術の利用も検討する等、普段の授業の中にも取り入れる工夫が必要である。</p>
48	高知県立高知西高等学校	<p>○グローバル・リーダー像やその資質・能力を明確にしており、生徒の変容を把握する際にも、それに関わる因子を確認し評価を行っている。この方法は英語力の評価にも使われ、全体として非常に説得力のある取組として高く評価できる。</p> <p>○また、運営指導委員会の指摘を受けて、業務の進捗管理や事業の振り返りが常に適切な形で行われている。今後はこのような「振り返りの理念や方法等」について他のSGH指定校へ広げていくことが期待される。</p> <p>○なお、学校事業の成果評価としては素晴らしい方法だが、生徒一人ひとりの成長、課題をしっかり捉えて、さらなる成長を支援することも大きな使命であることを意識する必要がある。</p>

49	福岡県立鞍手高等学校	<p>○大学との連携はあるが、課題研究実施上の位置付けが明確に示されておらず、国内外研修に参加する生徒が一部に限られているため、至急改善を図り、さらに各教科で課題研究に必要な能力を向上させられるよう全校での研究体制を構築する必要がある。</p> <p>○仮説に基づく成果や課題の分析は、研究を進める上で重要であり、3つの仮説それぞれについて検証をする必要があるため、早急に対応が必要である。</p> <p>○SSHに指定された実績や成果を生かし、今後はSGHにおける科学的な研究計画と実施の手法を開発することを期待する。</p>
50	福岡県立京都高等学校	<p>○音声言語を活用しプレゼンテーションまで高めていることで生徒が手応えを感じながら新たな課題に取り組みするという学びの好循環につながっている点は評価できる。</p> <p>○しかし、中心テーマである農業問題に関して、育みたい資質・能力が明確ではなく、生徒の認識・態度の変容をとらえるスキームも確立されていない点については今後改善が必要である。</p> <p>○課題研究の指導を遠隔地の人材に頼っている点は継続性に課題があるため、近傍の大学や関係者、自校教員による指導を増やすことも重要である。</p>
51	福岡雙葉中学校・高等学校	<p>○SGH校としての意識作り、各プログラムの土台作りは丁寧だが、このプログラムからは女性グローバルリーダー像が判断できず、学校の特色が伝わってこない点について今後改善が望まれる。</p> <p>○また、海外フィールドワークからはそれぞれの国や地域の問題に踏み込んだ取材や検証がなされておらず、成果も、海外体験・英語体験にとどまっている点は今後改善が望まれる。</p> <p>○中高一貫校のメリットを活かした段階的なグローバル教育が図られているが、外部への依存比率が高いため、今後は高校が主体となり生徒の探究の筋道をカリキュラムにおいて明確に立てることを期待する。</p>
52	明治学園中学校・高等学校	<p>○研究推進体制構築に重点が置かれ、推進状況の検証・分析が不足しているため、全体像を確認し確実に研究を推進していけるよう改善が必要である。</p> <p>○授業改善の方向性が、グローバル人材として必要な資質・能力の育成ではなく、大学入試問題分析から行った例が示されており、研究の重点がずれている。今後はSGHへの取組の成果を検証するための指標設定や調査を実施し、至急改善する必要がある。</p> <p>○また、課題研究、グローバルキャリア教育、グローバル英語という3つの科目開発といった野心的な研究開発が進められているので、今後はそれらがうまく連動して1つのグローバル・リーダー像の実現に結びつくようにすることが望まれる。</p>

53	中村学園女子高等学校	<p>○「食」を軸にして多様な取組を実践し、生徒の成長・変容を捉えるための様々な工夫がなされていることは評価できる。</p> <p>○しかし、日本食に注目した体系的な取組が必ずしも十分ではないこと、全般的に生徒の潜在力をより高める指導に弱さが見られる点は改善が必要である。</p> <p>○学校としてアクティブ・ラーニングへの取組が実施されるようになってきているため、SGクラス限定の取組に留まらず、全校体制の中で各教科等の授業改善に取り組むことが期待される。</p>
54	長崎県立長崎東高等学校	<p>○長崎に視点を置いて課題を探究するナガサキタイムの設定など計画通り進捗しており、各取組いずれも質の高い活動が行われていることは高く評価できる。</p> <p>○また、長崎大学、長崎県立大学との連携も進み、実質的なプログラム構築が進んでいる。今後、連携先拡大や中学との連携によるSGHジュニア等の取組で、非対象生への成果普及にも期待したい。</p> <p>○なお、個々の活動間のつながりがやや弱いこと、テーマの一貫性が十分ではないように思われること、外部講師への依存度が大きい点については改善が望まれる。</p>
55	宮崎県立宮崎大宮高等学校	<p>○SGH事業の推進体制が整備され、全教員が課題研究の指導・運営に参加している点は高く評価できる。</p> <p>○県の産官学連携によるグローバル・リーダー育成のバックアップを得ており、地域のフィールドワークでも外国人と共に調査を行い、日本や伝統文化への理解を深めている点も高く評価できる。</p> <p>○なお、全校生徒の2割が受講するプログラムであり、今後は研究開発成果をより広く一般化する工夫が期待される。</p>
56	鹿児島県立甲南高等学校	<p>○「社会課題研修ノート」を開発し、課題研究の質を向上させていること、高校生国際シンポジウムを生徒の運営で実施していることなどにより、成果を上げていることは高く評価できる。</p> <p>○また、マスコミを初め関係部署に広報の機会を設けるなどして事業の周知を図っている点が高く評価できる。</p> <p>○なお、外部講師による講義や教材開発が多く、自校教員による指導の姿が見えにくいこと、各活動間のつながりがやや希薄であることに関しては、今後改善が望まれる。</p>